編集後記

■職場にいると、同僚から「こんなきのこがはえてたんだけどぉ」と、鑑定を求められることがあります。答えられなくて冷や汗三斗、セロトニン八斗が毎度の事態で、まず分類のちからをつけねば、と痛感するばかりです。（ま）■去年の博物館の「きのこワンダーランド」展は、本当に楽しかったです。「きのこ」という生き物だけで、こんなにいろいろな世界を広げてしまう人間の世界も「ワンダーランド」だなー、と思いました。本当に、人間も不思議。（横）■編集委員となって皆さまの原稿からキノコについてたくさん学んでいます。これからもキノコの勉強頑張ります。（井）■千葉菌の会員は、全国にいるので会報の原稿も多彩にとんでいて読み応えがあります。ちょっと贅沢を言えば、千葉関連の原稿がもう少しほしいところ。（山）■むかしのきのこ話を歓迎します。こんなふうに食べていた、こんな名前で呼んでいた、など、ほんの一行でもかまいません。直接、もしくはお手紙ください。ご自身以外のお話も教えてください。『きのこ今昔』として、本誌で紹介いたします。（公）■2017 年は夏から冬の、職場のきのこ展で、そのあとは、おわったあとの報告書作りとかで、1 年間なにもできないとしになってしまい、会報も、いつもつくっていた本の紹介もできず、ほかの編集さんに、いろいろ本の紹介を書いていただいたりで、皆様に多大なご迷惑をおかけしました。また、2017 年に千葉で開催された日本菌学会の観察会は、千葉菌として全く貢献することができず、糟谷先生にご迷惑をおかけし、この点も、もうしわけない限りです。千葉菌の皆さんには、博物館の企画展ボランティアで、精力的に活動いただき深く感謝もうしあげます。今年、2018 年度で、停年になります。今回も、ご投稿いただいた方々、編集をやっていただいた方々、ほんとうに、ありがとうございます。（光）

□本誌に加え、ホームページへのご意見やご感想などもありましたらお聞かせください。またご要望も受け付けております。（事務局）

ISSN 1881-9230

千葉菌類談話会通信 34 号

CHIBA MYCOLOGICAL CLUB BULLETIN NO.34

2018 年 3 月

発行／千葉菌類談話会

編集／千葉菌類談話会編集幹事

千葉菌類談話会　連絡先

〒260 - 8682　千葉市中央区青葉町９５５－２

千葉県立中央博物館　吹春気付

ホームページアドレス　http://chibakin.la.coocan.jp/